

令和6年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

A 地域の特色学び講座 ～挑戦と新たな価値の創出～

地域課題の解決のため、新たな取組に挑戦したり、既存のモノを改修し、新たな価値を創出（リノベーション）したりすることを通じて、持続可能な地域づくりに関わっている方に学ぶ講座です。

講座 記号	日 時	テーマ	講 師
A 1	6月1日 (土) 10:00～11:30	食品廃棄物リサイクルによる カーボンニュートラル実現に向けて	株式会社 ナチュラルエナジージャパン 代表取締役 天 野 善 友 氏
A 2	6月15日 (土) 10:00～11:30	地域と共に歩む松庵寺	松庵寺 副住職 渡 邊 英 心 氏
A 3	7月6日 (土) 10:00～11:30	この街で子どもを育てたいⅡ	NPO法人 Yokotter 理事長 細 谷 拓 真 氏
A 4	7月20日 (土) 10:00～11:30	世界の目を秋田に、秋田の芽を世界に ～複合拠点『アトレデルタ』 から目指すこと～	株式会社アウトクロップ 代表取締役 栗 原 エミル 氏
A 5	8月24日 (土) 10:00～11:30	遊び×地域創生 ～地方の魅力を引き出し、 未来への活力へ～	株式会社遊名人 代表取締役 東風平 蒔 人 氏
A 6	11月30日 (土) 10:00～11:30	地域産業資源を使ったクラフト ビール・ハードサイダー造り ～都会に行っても、 戻ってこられる秋田に～	HOPDOG BREWING合同会社 代表社員 長谷川 信 氏

A 1 天野氏から、秋田県や秋田市の廃棄物の現状について話をされました。地域から出た廃棄物をエネルギーやコンポスト原料として地元に戻元する事業から持続可能な地域づくりの実現につながっている事を詳しく知る講座でした。

A 2 渡邊氏の世界各地を訪ねた経験や、松庵寺副住職を務められミュージシャンとしても活躍されている中、現在の「Terra cafe/TERRA BAR」や「松庵寺郷土祭り」の取組が紹介され、地域のつながりづくりについて学ぶ講座でした。

A 3 多岐にわたり活躍している細谷氏から、かつての横手の街の変化を目の当たりにしてYokotterを始めたきっかけから現在のような多様なアプローチで取り組んだことが紹介され、受講者が地域づくりに関わっていききたいと思うきっかけとなる講座でした。

A 4 栗原氏は国際教養大学進学を機に来秋し、2019年に制作した短編映画がきっかけで秋田に魅力を感じ、秋田に残り起業しました。現在は映像制作のほかに映画館を地域に開くシネマ事業や、様々なバックボーンをもった方々の交流を生み出す複合拠点施設を手がけていることが紹介されました。

A 5 沖縄出身の東風平氏だからこそ見える秋田の魅力や可能性について話されました。秋田に眠っている資源をいかにウリにしていけるかが、秋田の今後の課題であり、もともとあるものとあるものをかけ合わせることで未来の在り方を見出すカギとなることを学びました。

A 6 多くの人に秋田の食材を知ってほしいという思いで2022年にHOPDOG BREWINGを設立し、秋田の農業の厳しい現状や事業を開始するにあたっての苦労と、それを乗り越えるための工夫について話されました。次世代へ秋田を引き継ぐべく、秋田の産業を盛り上げていきたいという思いが伝わる講座でした。



令和6年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

B 熟議ファシリテーター講座 ～「熟議」をつくろう！～

持続可能な地域づくりや課題解決に向け、熟慮×議論により、連携と協働を形成・促進する話し合いの手法「熟議」。全4回の受講を通して、当センターの手法を基とする自分なりの「熟議」パッケージを完成させていきます。企画進行役のファシリテーション技術と「熟議」の本質について学ぶ実践的研修講座です。※プレゼンテーションソフトがインストールされているノートパソコンやタブレットパソコンの準備が必要です。

講座 記号	日 時	テーマ	講 師
B 1	6月15日 (土) 13:30～15:30	「熟議」をつくろう！① ・ファシリテーターの役割と 「熟議」体験	秋田県生涯学習センター職員
B 2	7月6日 (土) 13:30～15:30	「熟議」をつくろう！② ・オリジナル「熟議」の 構想立案	
B 3	7月20日 (土) 13:30～15:30	「熟議」をつくろう！③ ・オリジナル「熟議」の作成	
B 4	8月3日 (土) 13:30～15:30	「熟議」をつくろう！④ ・オリジナル「熟議」の プレゼンテーション	

[B1] 参加者は、生涯学習センターが実践を通して形づくってきた「熟議」を体験しました。何かを決定する会議のような堅苦しさがなく、テーマについて自由闊達な意見交換をする中で、他者の様々な考え方に触れ、自分の考えを深め、共感し、テーマについての自分事意識が醸成されていく体験を通して、ファシリテーターが果たすべき役割、場の雰囲気づくり方、組立て方等を学びました。

[B2] 第1回講座で体験した「熟議」のスライドを参考に、「熟議」の当事者意識をもつ（自分事として考える）ようになるためのテーマ設定、参加しやすい雰囲気づくりとしてのアイスブレイク、話し合いの方向性を理解するための資料提示の工夫等について学びました。後半では、自分なりの視点でオリジナル「熟議」を構想し、展開する方法を考え、スライド作成に取り組みました。

[B3] 「熟議」のまとめ方を、体験を通して学びました。講師は、結論を導いたり、議決したりしないのが「熟議」であり、参加者が意識・思考の方向性を共有することが大事であると述べました。後半では、オリジナル「熟議」の完成に向けて、参加者目線に立った資料の提示を考えたり、パソコンでスライドを作成したりと、熱心に取り組みました。

[B4] 講座の前半は、参加者各自で作成したオリジナル「熟議」の発表にむけて、仕上げの作業を行いました。その後、それぞれの受講者が作成したスライドを使ってオリジナル「熟議」について発表し、学習成果を披露しました。各自の立場(所属団体・自治会等)で話し合いたいテーマを設定して作成されたスライドには随所に工夫が見られ、すぐに活用できるほど仕上がっていました。最後に、講師から「ファシリテーションは経験が大事であり、今回の経験を生かして何度でも挑戦してほしい」と激励があり、全4回の講座は終了しました。



令和6年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

C 障害者の生涯学習講座 ～学びを楽しもう～

年齢や障害の有無に関わらず、どなたでも体験や講義を通して学び、生活の質を高めるための講座です。

講座 記号	日 時	テーマ	講 師
C 1	9月14日 (土) 10:00～11:30	みんなでヨガ	介護福祉士が伝える健康ヨガ ヨガインストラクター 佐藤 歩 氏
C 2	10月12日 (土) 10:00～11:30	みんなの美術鑑賞 みんなで美術鑑賞 ～対話で広げて深める美術鑑賞～	東北芸術工科大学 非常勤講師 黒 木 健 氏
C 3	11月16日 (土) 10:00～11:30	モルックの魅力	NPO法人 こまちハート・オブ・ゴールド クラブマネジャー 菅 善 徳 氏
C 4	12月7日 (土) 10:00～11:30	みんなが笑顔になる コミュニケーション術	秋田大学 名誉教授 武 田 篤 氏

C1 日常生活で気軽にでき、心身共にリフレッシュできるヨガについての体験を行いました。最初身体の状態は毎日違うため、身体へ負担のかかるような動きをするのではなく、その日の自分の状態を見極めて身体を動かすことが大切であることが説明されました。参加者の身体の状態に合わせて椅子に座ってのヨガ、正座をしてのヨガなどの選択ができたため、参加者は自分の身体の状態を考えながら無理をせず、リラックスした状態でヨガの体験をすることができていました。



C2 絵を見て、何が書かれているのかを参加者同士で紹介し、その後、どう感じたのかについて考えを話し合いました。他者の意見を聞いたり、自分の考えを話したりすることで得たものを広げたり深めたりすることにより、作品は自分たちにとって身近になると説明されました。参加者は、対話を通して作品を身近に感じることができ、「これからは美術館に行っても見方が変わらと思う」と話すなど、対話型の鑑賞方法について学びを深めました。



C3 チーム分けを兼ねて参加者同士で会話をせずに、誕生日の早い順番から1列に並ぶアイスブレイクを行いました。身振り手振りで自分の誕生日を伝え合いながら打ち解け合うことができました。モルックの体験は、ルール説明、投てきの方法などの説明後、6チームに分かれ試合形式で行いました。ゲームが進むにつれて、どのスキットルを倒すのかなど、参加者同士で作戦を考える場面が多くなり、ゲームを楽しみながらモルックのルールや技術などを学ぶことができました。



C4 みんなが笑顔でハッピーになるために「自分からあいさつする」「美味しいものや嬉しいことは、どんどん周りの人に教える」「脱いだ靴はそろえる」など、コミュニケーションが上手にいくための5つの魔法について説明されました。「相手から喜んでもらえることをすることで、自分を褒めることができる。自分が幸せになることが、みんなが笑顔になることにつながっていく」と強調されました。また、自分を労わる日を設けることも効果的であるとお話され、自分と向き合うことの大切さを学びました。



令和6年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

D 防災講座 ～命を守るために～

秋田県内の災害の状況や課題を知り、個々の防災意識を高め、地域コミュニティ全体の防災力向上に結びつけるための講座です。

講座 記号	日 時	テーマ	講 師
D 1	6月1日 (土) 13:30～15:00	新しい防災の考え方と避難行動支援①	日本赤十字秋田短期大学 講師 及 川 真 一 氏
D 2	6月22日 (土) 13:30～15:00	秋田県の記録的大雨災害から 考える防災・減災	秋田大学大学院理工学研究科 准教授 渡 邊 一 也 氏
D 3	9月14日 (土) 13:30～15:00	新しい防災の考え方と避難行動支援②	日本赤十字秋田短期大学 講師 及 川 真 一 氏
D 4	10月12日 (土) 13:30～15:00	秋田県の大雪災害から考える防災・減災 ～県内の気象の特徴から見る 雪氷災害の危険性～	秋田大学教育文化学部 准教授 本 谷 研 氏

D1 講師から最初に「防災を学ぶ上で大切なことは、過去の災害の教訓を自分ごとに考えて、できることから始めていくこと」との話がありました。それを踏まえ、①避難について・避難情報、②避難先について・避難所ってどんなところ？、③備えについて、④能登半島地震災害支援という4つのテーマを中心に話されました。講師の経験に裏打ちされた一つ一つの言葉に、参加者は真剣に耳を傾け、それぞれの立場でできる防災について考えていました。



D2 2023年に、県内を襲った記録的大雨災害について、その概要や、内水氾濫と外水氾濫の違いについて学び、秋田市内の各所における当時の状況について詳しい説明を受けました。また、五城目町の馬場目川における被害状況や、秋田大学手形キャンパス周辺の氾濫状況を確認し、水害に必要な対策を学びました。最後に、地震による津波災害について説明があり、高いところに避難する「垂直避難」と、遠いところに避難する「水平避難」を学びました。



D3 7月24日の大雨災害を受けて、講師から「避難の3原則」として、「確かめて避難」「早めの避難」「みんなで避難」が大切との提言がありました。避難行動の実態について、「危ないとわかっていても、すぐに避難できる人はあまりいないのかもしれない」とし、その背景には「正常性バイアス」があり、正確で適切な情報を得ることで素早い避難につなげることができるとの説明がありました。最後に、いざというとき自分たちで人を搬送するために必要なテクニックについて、演習を通して学びました。



D4 被害をもたらすこともある「雪」について、東北の日本海側で冬にたくさんの雪が降る仕組みや、雪の性質（雪質）によって雪崩等様々な災害が引き起こされることを確認しました。2020～21年の県南部での豪雪や、2018年の福井豪雪を例に挙げ、JPCZ（日本海寒帯気団収束帯）による大雪の仕組みについて説明を受けました。また、積雪については、その雪質（新雪・しまり雪・ざらめ雪・しもざらめ雪）の違いについて学習し、雪崩の発生メカニズムの説明を受けた後、実際に雨樋を使っての実験を行い、そのメカニズムを確認しました。

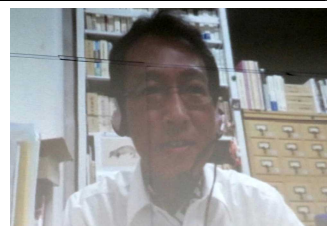
令和6年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

E 東大史料編纂所協力講座 ～歴史を伝える手紙～

東京大学史料編纂所の研究者から、様々な史料に基づく研究成果を直接学び、最先端の歴史学の成果に触れられる機会を提供する講座です。すべて【講師リモート講座】で開催しました。

講座 記号	日 時	テーマ	講 師
E 1	8月31日 (土) 10:00～11:30	中世の戦争と戦災	東京大学史料編纂所 准教授 西 田 友 広 氏
E 2	9月7日 (土) 10:00～11:30	南北朝の動乱と戦わない武士たち	東京大学史料編纂所 准教授 堀 川 康 史 氏
E 3	10月5日 (土) 10:00～11:30	戦国大名島津氏の戦争	東京大学史料編纂所 助教 畑 山 周 平 氏
E 4	10月19日 (土) 10:00～11:30	後方から見た戊辰戦争 —明治新政府の兵站と「御威光」—	東京大学史料編纂所 助教 水 上 たかね 氏
E 5	11月2日 (土) 10:00～11:30	毛利氏に見る近世的軍団編成の成立	東京大学史料編纂所 助教 立 石 了 氏

E 1 近年、東京大学史料編纂所が購入した、永和2（1376）年に、京都西郊の東寺領上野荘で作成された紛失状を入り口に、中世の戦争とそれがもたらした戦災について学び、当時の争いも現在外国で起きている争いと同じく、一般の人々が犠牲になっていたことを知る講座でした。戦争が日常の暮らしに与える影響についても紹介されました。



E 2 14世紀の「南北朝の内乱」と呼ばれる戦乱の時代の戦いの様子を伝える手紙が紹介されました。戦わない武士という視点で、南北朝時代の武士たちのゆらぎ、利害、損得感情といった知られざる武士の姿が見える講座でした。資料が具体的でわかりやすく、南北朝期の武士の実態を知ることができ大変興味深かったという感想が寄せられました。



E 3 古文書だけでなく、日記・年代記・覚書等の様々な種類の史料が残っている島津氏を中心に、戦国期の様子や合戦のあり方等について学んだ講座でした。史料のタイプ分けやその有効性についても触れられ、関連史料を閲覧できるWebサイトへ案内するQRコード集も提供されました。帰宅後も学習が深められるという感想が多く寄せられ、大変好評でした。



E 4 ^{へいたん}兵站などの軍事業務に注目して、成立直後の明治新政府がいかに戊辰戦争を遂行し、その戦争遂行体制が政権確立にいかなる意味を有したか、具体的な現存史料の研究成果をもとに詳しく紹介されました。講座内容は「最後方の体制やその意義について」と「岩倉具視関係史料」の2本立てで、歴史研究の最前線を学習する講座でした。



E 5 原史料をもとに、近世日本の時代的背景や毛利家を事例に武士集団（軍団）がどのように形成され成立するのか、その過程について学習する講座でした。軍団の編成のされ方や決め方についても詳しく紹介され、石高という指標をもとに組を決める様子についても解説されました。



令和6年度 あきたスマートカレッジ 講座内容報告

F 北条常久特別企画講座 ～戦争と文学 平和を求めてみんなで考えよう～

戦争の世紀を生きた文学者の足跡・戦争文学についての学びを通して、平和の尊さを次世代につないでいく講座です。

講座 記号	日 時	テーマ	講 師
開講 記念 講演	5月18日 (土) 13:40～14:40	～今、北条常久戦争体験を語る～	秋田県生涯学習センター シニアコーディネーター 北 条 常 久
F 1	6月29日 (土) 10:00～11:30	西木正明 「ガモウ戦記」	
F 2	7月27日 (土) 10:00～11:30	石川達三 「生きている兵隊」	
F 3	9月28日 (土) 10:00～11:30	金子洋文 「白梅記」 (戯曲)	
F 4	1月25日 (土)【延期】 10:00～11:30	伊藤永之介 「万宝山」	
F 5	12月14日 (土) 10:00～11:30	宮川ひろ 「東京へ帰る日まで」 (児童文学)	

開講記念講演 100名を超える受講者の中、所長の開講宣言で開始されました。今年度の本講座のオリエンテーションを兼ねて、北条シニアコーディネーターが、疎開の経験を中心に自身の戦争体験について語りました。阿部氏による高井有一「少年たちの戦場」の、感情のこもった朗読も好評でした。

F 1 令和5年に死去した仙北市出身の直木賞作家・西木正明の「ガモウ戦記」について、作者と親交のあった講師が様々なエピソードを交えて話されました。大学時代に探検部で活躍した作者の冒険家の一面が、作品に大きな影響を与えている点が印象的でした。



F 2 記者として日中戦争に従軍した、横手市出身の石川達三の「生きている兵隊」を題材に、当時の社会情勢を交えてお話されました。受講者は、作者がこの作品の発禁処分・禁固刑を経て、戦後にベストセラー作家となったことを聞き感心していました。



F 3 軍事保護院発行の「白梅記」を通して、秋田市出身の金子洋文の反戦思想について話されました。作者と白樺派との関係や、最近のプロレタリア作家としての再評価についても紹介されました。受講者は、戦争に反対する思いを新たにしていました。

F 4 上小阿仁村から秋田市に転出した伊藤家に生まれ、戦後、日本農民文学会の会長を務めた伊藤栄之介の生涯を『植民地もの』の代表作である「万宝山」を通して話されました。頼りにして上京した金子洋文とのエピソードなどもまた、興味深い内容でした。



F 5 宮川ひろ「東京へ帰る日まで」にふれ、仙北市白岩地区に二次疎開した主人公の目を通した、戦時中の秋田の人々の優しい人情について話されました。現在、世界各地で起こっている戦争で命が脅かされている人々に思いを馳せ、涙を流す受講者もいらっしゃいました。